

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 中村 彰良	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>研究</p> <p>前年度より引き続き、予算管理の問題点を解決する方法として提唱された脱予算管理について研究した。欧米の企業とアジアの企業とで、文化的な違いにより脱予算管理の有効性に違いが生じる可能性の考察を続け、アジアの企業では欧米の企業に比べて脱予算管理の有効性は低い可能性を示そうとした。また、アジアの企業で脱予算管理を導入している企業では、従業員に企業の長期的な見通しを浸透させるような他のツールも併用されるのではないかと検討した。そして、脱予算管理と親和性があると思われる他の手法がないか検討した。</p> <p>研究結果は、『脱予算管理と日本企業への適用可能性』として、高崎経済大学論集第57巻第4号に掲載される。</p> <p>教育</p> <p>簿記論については、授業で使うプリントについて、古くなっていたものを新しいものに変えた。また中間試験については例年通り実施した。授業時間外の質問対応は、例年に比べて多かった。</p> <p>管理会計論については、授業で使うプリントに新しく作ったものを追加した。また、使っていたプリントに変更を加えた。</p> <p>例年通りゼミ合宿をおこなった。合宿では各チームに分かれてビジネスゲームを行った。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>学生委員として学生委員会に参加した。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>研究面では、幅広く情報を集め、それらを管理会計の視点で融合できないか検討したい。</p> <p>教育面では、より分かりやすい内容になるように、工夫を積み重ねていきたい。</p>	